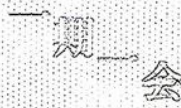


暮らしのかわらばん



8月13日にお迎えし
15日(16日)にはお見送り！
◎お盆のいわれ

◎迎え火・送り火について

◎新盆と盆提灯について

◎精霊棚について

平成23年
お盆のいわれ号

あなたの街の小さな小さな仏壇や
祭山佛心堂

☎0745-23-8911

(高田川築山信号北角)

(店舗まえに広い駐車スペースあります)

歳時

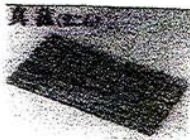
お盆嬉しや別れた人が、晴れてこの世に逢いに来る

お盆のいわれ！

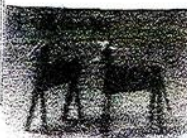
仏教の年中行事のなかで、一番盛大に行なわれるのがお盆です。お釈迦さまが、餓鬼道に落ちて苦しみでいた弟子の母親を供養したといういわれから起った説話で、あの世で苦しんでいる先祖の霊が我が家へ帰ってくるのを慰め、良き世界へ送り返してあげるという行事です。盆という言葉は、梵語(サンスクリット語)の古い言葉「ウラバンナ」これを漢字にした「盂蘭盆」の最後の一字が残ったものです。ウラバンナとは、逆さまにされるという意味で、餓鬼道に落ちた死者達を苦しめる世界から救い出すという意味があるのです。日本の伝統的な盆踊りも供養の一つで、この世に帰ってくる先祖の霊を温かく迎え、慰め、そして送るための踊りです。

お盆は年に一度の先祖霊の
里帰りの日なのです！

ご先祖様が、三界の万霊を引き連れて、なつかしい我が家へ飲み物や食物の供養を受けに帰ってこられます。私達は日頃、家族の為に先祖様の為のみを考えて、生活しているのですが、お盆はご縁のある仏さまのみならず、三界の万霊、無縁の仏様にも供養するという、慈悲に満ちた仏事なのです。



真鍮盆



ハスの葉



迎え火・送り火について！

13日の夕方になったら、玄関先でおがらを燃やし、そこからローソク火を探りお供えします。此の火を目印にして、仏様が我が家にお帰りに来るのです。玄関には、仏様の入口を示す提灯を提げておきましよう。そして15日(地域により16日)になったら、同じようにお供えのローソクの火で玄関先でおがらを燃やします。その意味は道筋を明るく照らして、無事お帰りになれるように祈念しながらお見送ります。環境問題が今日程でない頃には、この後、灯籠流しとか、精霊流しという儀式があり、小さな舟を作り火を灯し、精霊棚にお供えした供物全部を川・海に流しました。この儀式は一部地方では色濃く残っていますし、懐かしく憶えておられる方も多いでしょう。

新盆と盆提灯・精霊棚について！

故人となられて初めて迎えるお盆が「新盆」です。一般にはお盆には「地獄の釜の蓋があくと云われ故人の霊が初めて懐かしい我が家へお帰りに来る日です。新盆の家では、親族・故人と親しかった縁者を招き、新盆供養を行ないます。精霊棚を飾り、お寺様にお経あげてもらい、墓参りを行ないます。多くの地方では道族はもちろんの、親族縁者が《盆提灯》を贈る習慣が色濃く残っています。故人の霊が道に迷わないように灯りをとともすと云われています。

精霊棚について！

精霊棚(新棚)の飾りには特別な決まった形は有りません。一般的には精霊はキュウリで作った馬に乗る、茄子で作った牛に乗ると云われ、これをまこもむしろを敷いた上に乗せ、供物や蓮や水草等のほか故人の好物や花・旬のものを飾ります。これがお腹を空かした精霊への施食なのです。このようにお盆は仏教と民族の習俗と合体したものである。今日に至って真宗(西・東を含む)は霊の存在を認めておりませんし、霊は行き帰りのものではないとの考え方があり盆の儀式などはありません。

新盆(初盆)用の
白張提灯

しるしは白紙



ハスの葉とお供え
ハスの葉を置いて
お供えの香や火を
通して供養します。

ローソク火 香炉 リン
香炉 湯瓶

牛・馬
の供物

お盆一週・白紙・小皿・お水
精霊の霊魂と共に供養をします。
(真宗・浄土宗・浄土真宗)
お水(お盆)をお供えします。



迎え火・送り火用の
焙烙皿

